

# 令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 大山 仁志

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
13-1	知多半島広域観光推進事業	B	ジブリパークの開園に合わせて、知多半島のおもしろふしぎを伝えるWEBページの開設や、リーフレットの特集ページ追加など広域での誘客を図った他、中部国際空港の発着地となる地域のケーブルテレビ局と連携し誘客動画を放映するなど、新たな情報発信によるPRを図った。また、新型コロナウイルスによる制限の緩和によりPR出展の機会が増加し、県内のイベントやパーキングエリアなどに加え、川島ハイウェイオアシスや、ツーリズムエキスポジャパン2023、東京都庁全国観光PRコーナーなど、県外にも積極的に出展し、知多半島の魅力をPRできた。	現状維持	令和5年度は、引き続きリーフレットやPRカードといった紙媒体と、WEBサイトやSNSを活用したインターネット媒体の情報発信を両輪に、知多半島全体の魅力を伝えることで誘客を図る。 回遊性促進スマートフォンアプリ「ちたんぶ」は、民間のプラットフォームを活用したオンラインスタンブラーが一般化していることから、需要が低下しており、また、開始から5年が経過し維持費が増加傾向にあるため、事業を終了するが、事業の検証を実施し、新たな回遊性を生む仕組みづくりを研究していく。
13-2	観光振興事業	B	ウィズコロナ期の観光推進として、新美南吉を起点とした観光プロモーション事業や、すしのまち半田のブランディング事業、通年のいかも半田キャンペーンの実施等により日常的な誘客の向上を目指した結果、観光入込客数は、目標値を上回った。また、物産品等オンライン販売促進事業の実施により、半田市の観光物産品のPRをすするとともに、事業者の販売を支援することができた。一方で、観光入込客数は、コロナ禍以前の水準には達していないため、アフターコロナに向けた観光推進の取り組みが必要である。	改善推進	令和5年度以降は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、観光客の動きも活発化するため、市外、県外への観光PRを強化する。また、デジタル社会の進展に沿った取組みを強化し、より多くの観光客を集客するために、SNSマーケティングとして、有料広告やインフルエンサーを活用したPRを実施する等、時代の流れに合わせた広報ツールを新たに使い、誘客を促進する。
13-3	半田市観光協会支援事業	B	ホームページやSNS等のデジタルによる観光情報発信の強化、ラジオやテレビ等のメディアへの情報発信、取材対応に取り組み、誘客の促進を図った。また、新たなコンテンツの創出・強化として、新美南吉生誕110年に向けた、南吉パネルを制作し、市内イベントに際して展示を実施した。また、半田赤レンガ建物において、衣浦の花火大会に合わせて、親子花火フェスタを開催し、市内の他の観光施設と連携して半田の観光振興に寄与することができた。	改善推進	SNS等のデジタルによる情報の発信を継続するとともに、それらの効果の検証・分析を実施し、より効果的な情報の発信を図っていく。また、第九回はんだ山車まつりという全国から約50万人以上を誘客する機会を活かして情報発信に努め、半田へのリピーターやファンの増加を図っていく。

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
13-4	半田運河活性化推進事業	B	半田運河Canal Nightや85祭などの大型集客イベントの開催や、新型コロナウイルスの影響により閉館していたミツカンミュージアムの開館等により、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、半田運河周辺の観光入込客数の目標値を大きく上回ることができた。また、HOTORI brunchや半田運河の鯉のぼり、萬三の白モッコウバラ祭のイベント開催により、市民や観光客に広く運河の魅力発信を行ったほか、新たに運河周辺マップを製作・配布することで、日常的な誘客促進を図ることができた。	改善推進	既存の観光施設である半六庭園に風鈴棚を設置することで、新たな客層の誘客につなげ、周辺施設の集客力を活かしながら、半田運河のさらなる賑わいの創出を図る。また、JR半田駅の高架事業や土地区画整理事業の新しいまちづくりによる賑わいを創出するうえで、半田運河の観光振興との連携は不可欠であるため、関係各所と連携し、観光客の立ち寄り先となるスポットの誘致について協議していく。
13-5	半田赤レンガ建物管理運営事業	B	「カプトビールフェスタ」、「ドイツフェスティバル」等の集客力のある大型イベントを再開することができ、年間来場者数は目標値を上回ることができた。また、ジブリパーク開園に合わせて、シベリアの常時販売を開始し、ジブリパークの来場者への誘客PRを図ることができた。貸館においては、全国で初の開催となる京都嵐山オルゴール博物館の展示会を誘致し、市内外へ赤レンガ建物の魅力をPRすることができた。さらに、国の補助事業を活用し、赤レンガの新たな看板商品となる知多和牛のローストビーフ丼を開発し、地元企業との連携強化と認知度の向上を図ることができた。	改善推進	日常的な誘客増を目指して、赤レンガBBQの期間延長と平日の予約受付を開始し、夜の建物の魅力と地元の食材を同時に楽しめるコンテンツとして拡充する。また、誘客が弱くなる冬季に、新たに「赤レンガクリスマスマーケット」を開催し、半田赤レンガ建物のイルミネーションとドイツ色を取り入れた食事や物販の販売などにより、誘客増を図るとともに、赤レンガ建物の新たな魅力の発信を図っていく。
課等長	1次評価（令和4年度の総括評価）				
B	新型コロナウイルスの感染収束に伴い、大型イベントの開催、閉館していた一部観光施設の再開などにより、年間入込客数は目標を上回ることができた。特に周年記念イベントとして開催した「85祭」は、半田市商店街連合会、市内企業、半田商業高校の生徒や市民活動団体等と連携し、市内一丸となって取り組むことにより、シビックプライドの醸成に寄与できた。また、日常的な誘客促進のため、新たに運河周辺マップを製作し、半田運河のPRと周辺店舗や施設への回遊の促進も図った。年間入込客数は目標値を達成できたが、コロナ禍前まで回復はできておらず、今後はデジタル技術を活用した観光PRを強化し、県外も含め、広く発信していく。				
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	これまで新型コロナウイルスの影響を受けて、中止を余儀なくされていた半田運河CanalNightや市民盆踊り大会などの大型イベントを再開することができ、半田運河周辺の賑わいの創出や魅力の向上を図ることができた。また、半田赤レンガ建物や知多半島観光圏協議会では、ジブリパークに合わせた誘客事業を実施し、社会の情勢を見たスピーディーな対応ができた。今後は新型コロナウイルスの影響を受けないため、多くの来客が見込めるよう取り組むとともに、第九回はんだ山車まつりの開催を通じてアフターコロナに向けた、しっかりとした情報の発信とおもてなし体制の充実を図っていくこと。				